

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 19 年 9 月 6 日 (2007.9.6)

【公開番号】特開 2007-181227 (P2007-181227A)  
 【公開日】平成 19 年 7 月 12 日 (2007.7.12)  
 【年通号数】公開・登録公報 2007-026  
 【出願番号】特願 2007-28606 (P2007-28606)  
 【国際特許分類】

**H 0 4 N      7/26      (2006.01)**

【 F I 】

H 0 4 N      7/13                      Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 13 日 (2007.7.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 ビデオピクチャと第 2 ビデオピクチャとの間の順序値を指定し、前記順序値をビットストリームに符号化することからなる方法。

【請求項 2】

前記第 1 ビデオピクチャが、前記第 2 ビデオピクチャの復号化の後に復号化のためのものである請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記順序値が前記第 1 ビデオピクチャに関連するスライスヘッダにおいて符号化される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記順序値が前記ビットストリームにおいて 2 回以上符号化される請求項 1 の方法。

【請求項 5】

前記順序値は、前記第 1 ビデオピクチャ及び前記第 2 ビデオピクチャとの間の順序差値の代表である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記順序値を符号化することが、前記デジタルビデオビットストリームにおいて圧縮された値を符号化することからなる請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記圧縮された順序値が、可変長符号化処理を用いることによって符号化される請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記圧縮された順序値が、算術符号化処理を用いることによって符号化される請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

前記順序値が時間値の代表である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記順序値が時間値の代表ではない請求項 1 に記載の方法。

【請求項 11】

前記順序値が、ビデオピクチャのシーケンスにおいて前記第 2 ビデオピクチャに関して前

記第 1 ビデオピクチャのための位置を指定する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 2】

少なくとも一つのプロセッサによって実行可能なコンピュータプログラムからなり、前記コンピュータプログラムが、第 1 ビデオピクチャと第 2 ビデオピクチャとの間の順序値を指定し、

前記順序値をビットストリームに符号化するコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 3】

前記第 1 ビデオピクチャが、前記第 2 ビデオピクチャの符号化の後に符号化のためのものである請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 4】

前記順序値が、前記第 1 ビデオピクチャと関係しているスライスヘッダにおいて符号化される請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 5】

前記順序値が、前記ビットストリームにおいて 2 回以上符号化される請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 6】

前記順序値が、前記第 1 ビデオピクチャと前記第 2 ビデオピクチャとの間の順序差値の代表である請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 7】

前記順序値を符号化することが、前記ビットストリームにおいて圧縮された値を符号化することからなる請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 8】

前記順序値が時間値の代表である請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 1 9】

前記順序値が時間値の代表ではない請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 2 0】

前記順序値が、ビデオピクチャのシーケンスにおいて前記第 2 ビデオピクチャに関する前記第 1 ビデオピクチャのための位置を指定する請求項 1 2 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 2 1】

B フレームからなる第 1 ビデオピクチャと、

前記第 1 ビデオピクチャに基づく第 2 ビデオピクチャからなるビットストリーム。

【請求項 2 2】

前記第 1 ビデオピクチャが、B フレームからなる第 1 ビデオピクチャ及び第 2 ビデオピクチャを受信し、そして

前記第 1 ビデオピクチャに基づく前記第 2 ビデオピクチャを復号化することからなる方法。

【請求項 2 3】

P フレームを含む第 1 ビデオピクチャと、

前記第 2 ビデオピクチャが P フレームを含む前記第 1 ビデオピクチャに基づく第 2 ビデオピクチャとからなるビットストリーム。

【請求項 2 4】

前記第 1 ビデオピクチャ及び前記第 2 ビデオピクチャが P フレームを含む前記第 1 ビデオピクチャ及び前記第 2 ビデオピクチャを受信し、

前記第 1 ビデオピクチャに基づく前記第 2 ビデオピクチャを復号化することからなる方法。

【請求項 2 5】

第 1 ピクチャ及び第 2 ピクチャを符号化し、そして、

前記第 2 ビデオピクチャのための順序値、前記順序値が、前記第 2 ビデオピクチャを復号

化するためのものであるビデオピクチャのシーケンスでの前記第 1 ビデオピクチャを参照して前記第 2 ピクチャの位置の前記順序値の表示を符号化することからなる方法。

【請求項 26】

前記順序値が、時間値を表す請求項 25 に記載の方法。

【請求項 27】

前記順序値が、時間値を表さない請求項 25 に記載の方法。

【請求項 28】

ビデオピクチャの前記シーケンスが、前記ビデオピクチャを表示するためのシーケンスである請求項 25 に記載の方法。

【請求項 29】

前記第 2 ビデオピクチャを復号化することが、もう一つのビデオピクチャの動きベクトルに基づく前記第 2 ビデオピクチャに関する動きベクトルを計算するための前記順序値を利用することからなる請求項 25 に記載の方法。

【請求項 30】

前記動きベクトルを計算することが、前記もう一つのビデオピクチャの前記動きベクトルに基づく内挿演算を実行することからなる請求項 29 に記載の方法。

【請求項 31】

前記動きベクトルを計算することが、前記もう一つのビデオピクチャの前記動きベクトルに基づく外挿演算を実行することからなる請求項 29 に記載の方法。

【請求項 32】

前記順序値が、前記第 2 ビデオピクチャと前記第 1 ビデオピクチャとの間の順序差値の代表である請求項 25 に記載の方法。

【請求項 33】

前記第 1 ビデオピクチャが、I ビデオピクチャである請求項 32 に記載の方法。

【請求項 34】

さらに順序値の前記シーケンスが、一様ではない順序値の前記シーケンスを符号化することからなる請求項 25 に記載の方法。

【請求項 35】

前記順序値が、可変長符号化処理を用いて符号化される請求項 25 に記載の方法。

【請求項 36】

前記順序値が、算術符号化処理を用いて符号化される請求項 25 に記載の方法。

【請求項 37】

少なくとも一つのプロセッサによって実行可能なコンピュータプログラムを含み、前記コンピュータプログラムは、

第 1 ピクチャ、第 2 ピクチャを符号化し、そして

前記第 2 ビデオピクチャのための順序値、前記順序値が、前記第 2 ビデオピクチャを復号化するためのものであるビデオピクチャのシーケンスにおいて前記第 1 ビデオピクチャを参照して、前記第 2 ビデオピクチャの位置の順序値の表示を符号化するための 1 組の指示からなるコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 38】

前記順序値が、時間値を表す請求項 37 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 39】

前記順序値が、時間値を表さない請求項 37 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。

【請求項 40】

前記第 2 ビデオピクチャを復号化することが、もう一つのビデオピクチャの動きベクトルに基づく前記第 2 ビデオピクチャのための動きベクトルを計算するための前記順序値を用いることからなる請求項 37 に記載のコンピュータ読み込み可能な媒体。